

911.3
八

雜

四

季
混
題

911.3

八

雜

四季
季
混
題



子

Handwritten Chinese characters in seal script, arranged in vertical columns. The characters are faint and partially obscured by the paper's texture and other markings.

はな

四季

山

まなすも 志れり 志れり 志れり 志れり 志れり 志れり

もろも

まなすも 志れり 志れり 志れり 志れり 志れり

まなすも 志れり 志れり 志れり 志れり 志れり

まなす

下 四 時 刻 約 入 家 所
 廿 二 日 自 中 外 死 者 一 身 あり 其 身
 音 あり 其 為 也 其 時 一 日 一 種 二
 萬 の 負 也 其 所 止 一 清 輝 堂 皇 是
 公 爵 の 名 也 其 子 一 公 孫 孫 一 山 社
 隱 一 其 子 孫 一 其 子 孫 一 其 子 孫 一
 其 子 孫 一 其 子 孫 一 其 子 孫 一 其 子 孫 一

漢郊約と集山と海人の種
くを津屋へ選く精林は
厨人の好くその好くおと
よの事と片
事と海と集山と海人の

ハ
る
所

本
徳
集
山

序一

俳諧山莊集序

門人百川者一日携其所
集之俳歌若干卷來示余
曰欲奉諸干

金毘羅神請幸選之予披

而閱火其所集極廣博。玉
石磊珂於其選也。豈譎劣
如余者之所企及乎。恐置
玉於廡下。襲礫於篋。故辭
心。百川數請不措。予恐傷

序二

其志而欲勉強塞其命。於
是到松山之莊。閉關月餘。
選得一千有二百首也。再
採其中尤佳者。揭以
神祠。其餘并所獻。合為一

小冊子題以山莊集觀者
無以胡盧則幸甚。

文化三歲丙寅春二月

讚陽 芝峯散人撰



序三

書

喜乃乃

如秋

交の月

春を

秋

村の風

涅槃

明の

空

卷蓋 喜乃乃や 蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

蔌吟や 禱のうへ乃 喜を

肥後天師 乙嵐

阿加徳島 為齋

京都 有國

薩州加吉島 鳥帰

江洲舟木 楚雀

備後鞆 青牛

豊後昌 有篋

讚志度 斗律

日女 さい

全

郭公
古郎

月

梅

五言

初馬
仲冬

小田守やんごのり乃燈もかろ

日石田

如水

其考も負て幸と出れハ郭公

讀吉野

有篁

明目してハ仇なむや女郎を

日高松

蘭室

折るまゝこゝも忍て帰ぬ梅は

伊勢田

非石

月堂し一お明る乃揖枕

異調

雨古を啼き方とてやきさる

有篁

雪解やあふ志ありし一庵梅

讀志度

有國

けりやハ眼のこゝろ多り雪の舟

日白山

都夕

人の氣も新長うれと柳は

日高松

三逕

初馬や机を將ち一茶の鞘

飛蜂

梅書

長閑

林

松

柳

書

書

書

書

梅書や生輝のる引こゝる

備後頼

梅道

燒あゝもまゝに梅の葉も

日笠居

其鳴

松のや金風もなせ秋の色

花桂

夜梅了細敷の燈乃移り

日志度

有國

優しとハ梅もも枝る柳も

大坂

のふ

こゝろしては啼やつらと忍み

日

馬直

九月もあつて梅の葉も

讀志度

旭柳

中ふハ不こを強して

江戸

紫鳳

八十を山や虹のふ梅の

讀羽間

度外

硯切る山の麓や

龍川

法素

柿

そ

非

山

鴨

月

龍

山

備後朝

其曉

如水

全

飛蜂

文哉

可登

如水

楚雀

龍川

非石

讚引田

日川東

海雲やまを落し霞の上
 雨をうく柿のむちる文如
 可なるぬ蚊のあやその月
 暁ひ子の居るに志ほむ野鳥
 鳥野や枝のほしよ長堤
 小山の鴨ひつりまきまき
 かに住付よ信まきの鳥野
 子の居る月のまきまき
 野風や柿又地る音の雨
 葉の結ぶ志のまきまき

二

臘月

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

白鳥

讚三松

日白鳥

日三松

花静

のふ

紫懸

東江

龍川

東江

其長

三逕

李蹊

東江

日長尾

与洲川江

野狐の深き迷へり臘月
 隙を極しりおとりのま
 水仙やまもむうしのまの初
 鳥曳く底の女やうんこを
 葉のまきまきまきまき
 卯のまきまきまきまき
 長き水の沖新よ文の断り
 鳥野や柿のぬ鼓も信授りの
 片はた長き山岡の葉のまき
 まきまきまきまきまき

杜若

柳

松

山吹

菊

水仙

鴉

草

凍

卷頭をあらして落きて床に杜若

雨帯りて草を寝るの柳

梅をんと出れりて空しく自れに

根の曉吹くくくくくくく

山吹や白くくくくくくく

そわわわわわわわわわわわ

結語よよよよ日柳や水仙

花の波もあつて帰る鴉

草花や山吹の中の草花

佛のよう凍りて雨後の入石

江洲舟木

獅丸

其鳴

雨江

秋馬

班雀

其道

其鳴

如髪

故泉

鸞尾

講棟井

伊勢山田

阿州富岡

江戸

講棟井

日志度

金屋羅

湖西舟木

三

秋

夕液雨

之社

此を考ふ

去

後月

秋

木犀

怪

怪

浦の秋はせし家の並ひく

精あるも空しく交時の夕液雨

串もまた秋のうらみ流る形

蟹もまたあつてあつてあつて

此もまたあつてあつてあつて

舟屋の人もあつてあつてあつて

雲をぬき雲を思ふあつてあつて

あつてあつて眼の秋の夕々

木犀や先任眠りあつてあつて

涅槃うらみあつてあつてあつて

京

讚井上

日石田

日志度

日高松

日志度

日高松

日志度

日高松

日志度

日高松

千鶴

頭化

固有

度外

其鳴

眠亭

花雪

存候

紫懸

里隆

舟の楫

龍宮

波雨

故泉

旭柵

眠亭

紫懸

都夕

一船

雨

舟の楫

龍宮の波雨

波雨のあつた合ふ山

踏みあはれし水の響け

吹かすおあはれなるを

快に星の夜風や維子の影

花をよみて目と移るる花

小舟の風情の余る牡丹

大和路やまの舟奥底

晴まらぬ風を起さる虎う雨

さい

孤柵

澤雉

旭柵

故泉

旭柵

眠亭

紫懸

都夕

一船

日元山

日長尾

日高松

蛙

二日月

山楫

水鳥

花

菊

福

風

小表

影うつて不なるを

九月の秋のころ

文月の封あたる人

温泉の所て入る人

あそぶるはす水

小舟文て綴る花

閑うんと日と待

移書よつ合せ

音くまよ啼出

唄ひとつ子と

班雀

一船

旭柵

都夕

度外

路傍

澤雉

寸大

兜嶽

文立

日井上

伊勢山田

讀井上

日三松

蛙
 時鳥
 新羅
 松竹
 水鳥
 月夜
 下鳥
 後鳥
 冬月

水鳥の池の月夜や下鳥の蛙
 幾つひもさしやうりて時鳥の
 新羅やうりてさしやうりて
 松竹の道二の助乃枝舟の子
 水鳥の池の月夜や下鳥の蛙
 下鳥の池の月夜や下鳥の蛙
 一船の平氣の末や下鳥の蛙
 梅雄の池の月夜や下鳥の蛙
 其道の池の月夜や下鳥の蛙
 里月の池の月夜や下鳥の蛙

大坂 其鳴
 讀井上 米成
 讀井上 松花
 京 千鶴
 讀鳥松 不及
 伊勢 吾雪
 一船
 梅雄
 其道
 里月

天の川
 秋鳥
 松竹
 時鳥
 雞子
 新羅
 水鳥
 液雨

卷武花野や下鳥の蛙
 幾つひもさしやうりて時鳥の
 新羅やうりてさしやうりて
 松竹の道二の助乃枝舟の子
 水鳥の池の月夜や下鳥の蛙
 下鳥の池の月夜や下鳥の蛙
 一船の平氣の末や下鳥の蛙
 梅雄の池の月夜や下鳥の蛙
 其道の池の月夜や下鳥の蛙
 里月の池の月夜や下鳥の蛙

京 其川
 金田羅 蛙水
 讀鳥松 一州
 阿州撫養 龜隆
 讀井上 以一
 日白鳥 江南
 さい
 有國
 可登
 花靜

志 山 時 橋 月 仙 五 月 二 孫

大坂 鷺舌
 可登
 其鳴
 柯喬
 蘭室
 里川
 梨山
 貫二
 大魯
 奇峰
讀津田
與洲松山
西讚
與洲松山
阿洲西條村
讚津田

六

山 茶 花 月 御 つ 破 障 子
 音 ち ゝ 遊 芝 の こ の こ の ぬ 糸
 振 ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
 孫 標 や 夕 日 輝 く 長 廊 下
 霧 を ち ゝ の 糸 位 ち 神 や 月 の 秋
 人 訓 ち 供 ち 飛 ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
 時 ち ち 十 日 海 ち ゝ ぬ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
 雨 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 解 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 岩 崎 や 山 陰 崎 ち 二 日 月

路傍
 孤松
 奇峰
 柯喬
 一船
 魯州
 可厚
 有國
 觀瀾
 蛙水
日高松
日津田
與洲松山
金毘羅

物
特寫

夏月

菖

つて

つて

つて

月

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

讚箕居

日高松

日笠居

西讚太森

金毘羅

讚高松

日東川

日高松

百川

積翠

里朝

泰川

魯州

鶯舌

梧鳳

和栞

荷杖

巴江

七

夏月

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

つて

金毘羅

讚山崎

象山

芳山

可登

蛙水

有國

寛子

故泉

梅廬

斗律

一洲

京

大坂

物

夏月

秋

竹

月

ついでにぬれもなかりけつと石の橋

管あまきく思ねん城ありはるらひ

登りついでに石の塔やしちううま

うきしと鷺空夏の月水石

秋空や夕風さそは秋花の上

猫人の脊尻くく巢立遊くお

岨道乃山登り止まや岩躰濁

堂火のささうし度りまは水石

竹を障や秋の月まはる庭の夏

是をう人も静に月と水

讚笠居

日高松

日笠居

西讚太麻

金毘羅

讚高松

日東川

日高松

百川

積翠

里朝

泰川

魯州

鶯舌

梧鳳

和栞

荷杖

巴江

夏月

露

花

宿

疎鼓

氷柱

氷柱

氷柱

氷柱

楊子乃歌あり夏の音と花

葉の上まをくくはるる露さ

巢乃蜂のまお人と山せたり

持てて踊よきくひる扇くぬ

百丈の岩乃空や疎鼓を

氷柱の音ささるる氷柱は

雪のゆるる履の志ある下を敷

打ららし木と見出たり室古智

妹さよふ秋とあけり想うを

寮の灯は葉城と神と露の影

金毘羅

讚山崎

大坂

京

象山

芳山

可登

蛙水

有國

寛字

象山

芳山

可登

蛙水

有國

寛字

梅廬

斗律

一州

夜半の月
 十の月
 養父の
 中
 梅の
 月
 暑
 秋
 名月

巻頭 夜半の月
 さあさあいさあおの月
 養父の
 日たわらぬ
 茶の
 双枝
 頃
 暑
 遷宮
 名月

江戸
 越前
 讃
 京都
 全
 芳山
 一船
 友之
 梨山

鶴
 雲
 秋
 稻妻
 稲妻
 稲妻
 青嵐

妻の
 昨の
 襟
 夕
 稻妻
 夏
 茶
 夕
 樓

丹後
 京都
 攝津
 讃
 江戸
 讃
 日
 江戸
 遠州

白
 仙
 魯
 青
 花
 松
 柯
 楚
 鬼

友 天 春 秋 勝 集 集 集 集

春の夜や眠るゝすれか又ひつ
讀笠居 三直
 花咲く大草をまね流流の危
丹后宮津 跨山
 厂の啼夜や象沼の物語り
奥南郡 調鼓
 いとくまゝ馬の齒者や春の柳
 隠家より人あり納ま汁
 露凝る稲よ夕日の回西うみ
越后魚沼 可登
 又うねる月をさぐる舟外の市
 五郎志や休連の後はまゝ由乳又
讀笠居 松花
 見よおのゝのゆゑやかゝる
 夕風や月置うねりちる柳
九 白兒
 南溟

秋 月 花 移 集 集 集 集 集 集 集 集

世よまねとあそびたり種あはれ
 提ての兎のけいやくとあそび
 食志ありまゝありまゝの水
 夢のたぐとまゝありまゝの柳
 分るる清きなれや秋の鳥
 名月や星の小窓又笛の聲
丹後後野 固有
 弱啼川田の柳林ふ動きたり
遠洲金指 花汁
 ちよとよ又海もよし東やう
 菊蔭やおとろけ月の江は流る
 移集のおくとまねてまゝに
 固有 眠亭 柏青

汁鍋を餘る悵 乃るるるふ
 草をいし秋ハ返返母よりぬ
 桂葉よりああ〜とわて夕暮し
 常よりとほつや梅乃一票
 岸やちああ〜しちのり
 晩稱前幸屋不路の雪草を
 櫓の火や幾代つらぬる自今
 岳の燈乃消てハえある雪雨
 名月や毎よ何焚くハ燈
 何とあ〜るふら〜しつあの下

圭紗
 楚流
 調鼓
 旭柳
 雨萱
 楚流
 全
 全
 瀑川
 旭柳
讀笠居
日春日

巻頭

響響の響より〜を〜
 夕暮と〜れ野の果や帆の初
 照る雨のあ〜の接木う那
 夕〜と〜後曇るやまの燈
 自山や〜葉よ〜雨音
 船中〜後よ〜呼たき
 村人〜志お〜啼男若の
 い〜と〜お〜散ら
 照啼や〜ち〜の清い
 あ〜の〜ら〜る

一之
 暉峰
 由歌
 一峯
 自来
 一船
 暉峯
 十細
 一之
 佳兆
大坂
讀笠居
擬有馬
讀高松
日笠居
日高松
日榎井

波中くつりて雲をひらけりて霞のふり
首の葉をよとれどおのれは秋の風
そぞろくつりて山をこしぬる
松江の川を越へりてくつりて
このおのれをよとれどおのれは秋の風
ちよとれどおのれをよとれどおのれは秋の風
悔悔や門は静かありて
智曲くつりておのれをよとれどおのれは秋の風
くつりておのれをよとれどおのれは秋の風
素も出くつりておのれをよとれどおのれは秋の風

日吉 仙悟
日笠居 荷薪
金毘羅 千峯
公木
仙悟
南暝
荷薪
十綱
荷薪
一船

十一

青葉の濡るるありて雨の雨
白代や濡るる追りて田舎の秋
山はまきくつりておのれをよとれどおのれは秋の風
はあれは秋の風をよとれどおのれは秋の風
是れは秋の風をよとれどおのれは秋の風
福島のむらとれどおのれをよとれどおのれは秋の風
星ありておのれをよとれどおのれは秋の風
秋の風をよとれどおのれをよとれどおのれは秋の風
風乃ちよとれどおのれをよとれどおのれは秋の風
晴もあつりておのれをよとれどおのれは秋の風

其道
一船
河岳
十綱
一船
蘭室
素厚
巴江
仙悟
直一

讀巻

讀巻

花 蟹 寒 物 氣 元 鶴 月 雪 庭

遊人(と)かめい(と)入(と)梅(と)を
 丸山(と)も(と)秋(と)も(と)加(と)る(と)は
 葉(と)ら(と)も(と)葉(と)ら(と)い(と)の(と)あ(と)な(と)る
 露(と)重(と)秋(と)も(と)葉(と)重(と)る(と)色
 辻(と)の(と)ま(と)う(と)残(と)る(と)時(と)雨(と)ふ
 水(と)無(と)引(と)也(と)重(と)の(と)重(と)ぬ(と)ま(と)に(と)終(と)る(と)水
 雨(と)重(と)の(と)あ(と)も(と)重(と)ま(と)て(と)赤(と)火(と)の
 庭(と)も(と)深(と)や(と)ま(と)の(と)影(と)わ(と)け
 清(と)し(と)峰(と)山(と)彦(と)も(と)凄(と)し(と)冬(と)の(と)月
 茂(と)る(と)竹(と)と(と)林(と)と(と)増(と)る(と)深(と)く(と)水

十二

日高松 荷新

日 吾柵

日 羅綾

日 筠子

日 故泉

日 春江

日 香峰

日 吳竹

日 博山

日 荷新

日 佳兆

日 朱提

日 十綱

日 一之

日 里水

日 博山

日 雪山

日 地久

日 柳翁

い(と)包(と)お(と)野(と)中(と)の(と)水(と)や(と)啼(と)性
 庭(と)も(と)深(と)く(と)残(と)る(と)も(と)あ(と)れ(と)雪(と)の(と)影
 梅(と)は(と)れ(と)は(と)梅(と)ら(と)れ(と)は(と)月(と)と(と)ぬ
 物(と)も(と)い(と)の(と)あ(と)も(と)た(と)や(と)う(と)は(と)毎(と)日
 人(と)ま(と)い(と)は(と)葉(と)ら(と)い(と)の(と)あ(と)も(と)山
 志(と)し(と)葉(と)れ(と)ぬ(と)も(と)深(と)く(と)も(と)重(と)る(と)衣
 清(と)ら(と)る(と)雪(と)の(と)古(と)し(と)梅(と)の(と)ま(と)か
 汲(と)あ(と)け(と)こ(と)も(と)湯(と)氣(と)も(と)い(と)ま(と)は(と)非
 る(と)深(と)の(と)ま(と)も(と)あ(と)も(と)重(と)る(と)葉(と)も(と)新
 幕(と)も(と)雪(と)れ(と)ぬ(と)も(と)入(と)り(と)も(と)死(と)の(と)り

日 佳兆

日 朱提

日 十綱

日 一之

日 里水

日 博山

日 雪山

日 地久

日 柳翁

日 故泉

日 春江

日 香峰

日 吳竹

日 博山

日 荷新

日 佳兆

日 朱提

日 十綱

日 一之

養蠶
井楳のまゝもさうして初頃の

讀言鳥

有光

春の葉やまは枝の松

柯喬

霧降もさうして舟の秋の言

有光

程まにやうあまの秋の言

梅廬

さうくと雨降てはあゝ

琴波

こゝろに風やま葉はさう

楚山

長明の松はまはさう

旭柳

梅の葉やまはまの秋の言

魯州

体も回ふ松はまはまの秋の言

有光

まは路やまはまの秋の言

百川

遠和抄

讀長尾

讀大珠

一陽を梅はまはまの秋の言

讀高松

如流

雨あうす松の風や梅のま

柏青

日とあうす松の風や梅のま

蘭室

人りもまのまのまのまのま

春山

火津降の店もあうす松のま

有光

たすの月もあうす松のま

無名

夕風や木葉をまはまのま

車籠

わらう葉もあうす松のま

無名

まはまのまのまのまのま

拍青

不二もあうす松のま

吾雪

金品

京

山寺や梅ちる友のまはれ静

讀龍宮

一夕

羨よてさるる路通あり秋の夕

同福圓

緑山

情小登のまをれよ文る藩雲が

有光

月空を孝誠す麻の乳法師

其川

常ふさるるまを記旭の如

歳後次

敬之

法もさるるやかれもるをたお鶴

三河吉田

連中

恙葉してさる鶴と山家お

旭柳

茶のまを日柳つるをたお信の室

百川

言て誠す川ありさし啼に麻

象山

飯を焚中水漬もさるるを梅の灯

其川

標の月人を志のやそまをるる

今

吹く風の風涼しはさるる

虎溪

幕布きて住居定まる梅さる

故泉

叢中の啼やさるる梅おれさ

旭柳

順神代徳をさるる日柳お

楚山

夕影も町柳さるる梅おれさ

魯川

年々も梅さるる梅のよ此山

虎溪

船もさるる梅おれさ梅かんとさる

故泉

層のまをさるる梅さるる門田お

龜隆

わらさるる梅おれさ梅おれさ梅

一船

歳々年々
人不同

雲雀

同

於時

被岸

柳

醉ふ州ふや〜も夜まれ月

天人の降り〜とこれいそがし

文りや多れ〜にま念佛

後長新ふ雨ぬのはさ〜

吾川ふま流流も山さ〜

お〜つる日南〜花や於れ愧

山里は言解て〜る被岸野

福書や以合ふおの人れ歌

まを里れたのさ〜くおおお

餘のちの似合ぬ枝や柳ぬさ

百川

其道

五詩

花汁

五詩

桃江

一始

悟鳳

有光

連中

養

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

鬼白

調鼓

白扇

旭柳

存候

露公

旭柳

花城

梅守

閑鷺

薄氷の流石の湖也なり月
 蝶しく乃人ふ後しく日初家 大坂
 芳若る萩の下風とこれなり
 雨とこれ地をさるる里也時也
 芳れ草をさるる丸也れ燈の燈也
 此うこれ瓶も蓮の燈也さるる 讀笠居
 ありて休せんとして漏れをさる
 ありてしや流石の燈也後を陸
 市立の人意くならるるありし
 冬れ月とるる遠流り也 奥加南坪
 花城 鳥門 仙司 博山 旭柳 千鳥 閑鷺 旭柳 桃江 梨同

鶯居やらさるるまがたう門 裏赤 遠加金指 仙司
 無人又りて野行は後也 三加吉田 菅里
 隊眉の香初もつるる人 讀高松 足龍
 つるるこれ貝も有候の汐予也 同羽床 千種
 田方たつおまも有し 同栗井 魚道
 山形の延て糸もあのを解りぬ 遠加金指 博山
 朝の月のさるる 讀井上 布川
 夕自氣とこれて勢田の柳 讀井上 里川
 雨とこれ 讀井上 雨籠

薄氷の流石の湖也やうの月
 蝶しく乃人ふ後しく日初家 大坂
 芳若る萩の下風とこれり
 雨をこれ地をさうふ里也時多
 芦れ草をさう丸七れ燈の担ひ
 出らうれ瓶も蓮の浮きあふ 讀世居
 ありて休せんとして偏れきり
 赤うりしや流石の座を返る陸
 市立の人をさうかうまわし
 冬れ月をのさく遠流の舟 奥高岡郡
 花城
 鳥門
 仙司
 博山
 旭柳
 千鳥
 閑鷺
 旭柳
 桃江
 梨同

鶯路やうのさうまがるなう門裏品
 一人よりうれて野徑は流石也 遠坂金指
 隊眉の雪初もたうせんま 三ツ吉田
 ころころ月も有候の汐下 讀高松
 男たうおきも有し三井宿 同羽床
 山姥の遊て床をぬき解ひ 同栗井
 朝の月のさうも 遠坂金指
 夕自氣をさうて勢田の柳 讀井上
 舟れ流石をさう浦の月
 ふ松ふか石は 讀井上
 仙司
 菅里
 足龍
 其推
 千種
 魚道
 博山
 布川
 里川
 雨篁

涼—とて並ねるて受てくりり

花摘

踏ふてしき舟道つら山とて

拱か皆

一實

痛つまぬあやさひらぬりか

讚筆居

其石

ててつる筆にさへい流りぬふ

里隆

管も乾の節—とて唐や麻の—

其道

さう史の書根小沈むぬゆま

同福岡

吾岳

そ月や柳の飛出る大古船

孤柳

我唐の八里を—夕—とて

遠易倉指

海州

一と端舞 秋は隣—とて

京

魯竹

積るんとて—とて母の笑が

其石

雪の目や煙あつたれ若小舟

旭柙

隠家、はまれ屋く—とて

千鳥

大系女や戴く紫よ—とて

旭柙

とて—とて一里をぬむ夕—とて

千鳥

中—とて—とてぬ雪れ—とて

花摘

旭—とて—とてお店の小蝶—とて

芦元

鴨啼や夕月を—とて—とて

其道

登れ—とて—とて—とて秋の—とて

蘭室

玉雲の—とて—とて—とて—とて

讚高松

醉月

お—とて—とて—とて—とて山

白兎

春頭

隙を以て風をよそはるるをいふは雪

尾加巻屋

碩外

猶月果ちと海のたうれ共

大坂

以一

待報多し未れいふを道もはれ

肥前島崎

挑水

飽うぬ目の花やゆふひをにふ

大坂

祥禾

垣大や比叡の山うせと井は鏡

同

入江

ままに信ふとそれりゑうか

若州

鬼橋

烟の啼きあてよりうさ動く

出羽

鬼雀

うつかるをそれ日乳の流の色

真澤荘

秋也

かえりてふるふのぬお九折

讚志度

里圭

けいをを家へふ角や垣半

連中

三尺のねと月れ入る枯野を

入江

鴨く川や井のつゞきなふ乳

同富田

佳兆

春橋ははは横とくや去れ風

越中兼光

如陵

月今宵はにを坂の性ま和

讚梅井

白老

蝶いさし人とまふんふたふ

尾加巻屋

和風

ふふれかきと枝さうや極の糸

尾加巻屋

佳兆

喜れ月隣おりのうめ共

尾加巻屋

肆山

涼山後の木の葉やうらとふ

讚梅井

兆石

けいもや白川流る夜法師

一船

朝風よねおむと忘れり

梅笑

秋風の去や艶女うたふる
南溟

夜よ昼小春さうらう花様
肥前長門
園松

文りや指扇々々
千峰

心細き杖の入り見やわす
長門赤間
魯州

松と的一矢射てえん
讃高松
羅風

あをや身をささるる小月の上
鳥門

殿中と所々の杖と
東江

歌出て寐らるるぬ
讃高松
連中

芥子の心
讃高松
其櫻

妹うれし
讃高松

けねよ二女の客にうたはれ月
讃高松
玉川

隣りもやうな寝ぬき
筑後国
良山

すかとももあふれ
西讃
紫淵

傾珠の鏡よわうふ
桃水

いれおととて
一船

静法は焚やとつや
蘭室

静とや月とむ川
鳥門

大和路くあもさ
讃高松
麦静

梅雪やまのひ
桃水

ささるる
一州

一州 過躰月けりしけふ前さく
 大坂 虫堂や昼の焼くことあけ人
 讚富田 朝戸出の能く道連や鳴き雀
 備前岡山 名月や扱てそれの須戸の砂
 讃志度 沼より此舟ふすおや晴の麻
 同高松 浦公や煤もこしき音たり
 鳥門 為晴て細代は月けりしき
 玉川 咲くうと花のほくや春け坊
 玉城 井小移るふりか髪の柳ふ
 玉川 能い中の垣英しや葉畑

巻頭

百川 いつしつふあうさう百日紅
 孫州川任 掃石を拾うてさる様いふ
 伊勢山 管火や柳撻めて糸のけり
 讚筆尾 鵜川さあ虫なうさうり
 同鶴羽 独任狂のなうれや梅け奥
 同高松 白鷺の細径をさす氷の柳
 赤溪 井極て流をさすかと思ひさう
 石山 代垢離の石よえむさ目か
 暉峯

ふさくや夕日つらき山の上

蘭室

まの窟とてよまふ秋の夕卦

巴江

夏軒ふらきふらき

暉峯

柳の住定えけりて枯やふさ

石山

荷葉よこつてさあや時を

同鶴市

花錦

摘まきもくく名のこころふか

春江

日のさぬ暈に狭く着のさ

故泉

若咲てかきうぬ窟の尻うふ

同笠居

不白

二筋小尾を引ぬや記す此跡

一州

水秋中越路を戻る縁芝居

暉峯

隙狭く雪の切もや文殊堂

故泉

尾焼燐りしれる雪を背か

芦洲

岸小舟の素敷とるれり

河岳

よ紀人の名に知れぬ一葉の糸

讚五条

柳糸

河原の梅はたうれて二月ふ

一峰

海つらき友の言やとりぬ

河岳

水洞て川幅廣く鳴るも

雨篁

木乃為哉寸詰るはつちやま

一秀

一日の縁面ふさきとらんふ

同高松

梅友

はねや柳小掛しひとくお

百川

汲程ハ忘るの清みたる水也

讃吉

紫雪

梢々秋のそよ風一葉も

河岳

すしと夕日と浸す海は果

巴江

うきうきと一葉も

十網

山とてふふりて荒れ

雨篁

檣越てりふ葉や燕子も

同鶴羽

芟甲

朝雲や八洲と出て暮るる

百川

小波交て浪火ふとちくちく

蘭室

ささちつれふおちり鳴る繩

瀑川

白鳥と下りたる月や不之信

羅綾

床とて花咲く奥の夕けつ

紀州高野

月空

遠き江と吹越す夢やおぼれ

直一

着袴て思ひたる老の給うか

讃高松

馬笛

来朝の舟えさるる書遠く

一秀

枯芦や柳かゝ小舟繫る

雨篁

水波と暮れ下りたる氷うか

素厚

五月とて柳を鳴らぬ縁の奥

石山

鳥羽玉の言はれ葉やむらけ

香峯

千羽とて風のつら酒をさ

百川

砂と出れを公なりと

同鶴羽

赤甲

巻頭

縮書よ人あつてさうてさうり

亀隆

所をひたすく文とまきれ月

白兒

友床一橋ふみのと白障板

灌圃

川やうに家もあゝひて柳さふ

霞雪

ふりおほと老松うれてさう

素卿

里の旅果へ戸ふやうしりしお

敬之

らう津ふの女房無さるまれば

史朗

麻すの茶流ふ房の柱の家

亀隆

嵐吹まき音こゝろや水音の鐘

白兒

白桂落るさうりてさうり

桃江

切几中の尾上歌しり名ふ

海草

帯よりもけ指さし冬れ月

里川

柔極てふさおさの安さお

如峰

新羅る野川の月や啼蛙

吾雪

山田も風まよおせれ歌うふ

樗榔

白牡丹おひ美人とらうりさん

跨山

朝虹の消て雛子鳴山辺うら

桃江

鶉をさやもの衣いさうりも

志竹

梅よめ柳ふさる時辰ふか

如水

後のかうさるまのさへもさう

吳峰

讚鳥

越後守

奥羽守

越後守

奥羽守

讚津田

讚鳥

日津田

暁吹の風をせめてまき堂か
 引鶴や一夢宛よき 千成
 門幸小月をみゆるや二日此夜
 花をてゆくさねふよるをこふ 丹後後野
 仲冬の奥の白ひや夏の月
 城山や猿うらねの縁をう
 扱の丁の志をうらなる羽をう 讀白鳥
 葉の唐海を夢有とあり
 空ありは梅とらうりて流るり
 幸風や日の思裁て猿心

旭柙 江南 白兎 曉吹 敬之 雨更 化来 柙江 仙司 全

生盤小月の思むむや梅れ夢 京
 風や坂を登れぬ堂の月
 鈴籠の積りて葉れ夢を
 廣原のくさくさ言ておるが
 文て紙寸男麻はきや新田山
 それ菊や折とらりてあけ青
 月落ておれをまじむ山を我 讃福岡
 五月の雨や鶴啼夜のわが
 常れ今朝とせりしおきか
 葉をうら野中れ其元や鳴蛙

五葉 素卿 龜隆 如水 戲蝶 車龍 柙枝 梨同 白兎 旭柙

十鳥

素橋三河吉田

桃江

楚園

松風

貫二

芦元

紫鳳

吾雪

柯喬

馬番

卷頭 白年月日海一船の帰りの種 寸大

青塋

一船

寸大

江南

孤松

斗律

春山

都夕

寸大

同春日

は米垣や道うららみ織守茶屋

讀志度

南浦

卯の雲のさき消せより五月雪

里隆

あ仙や日南の去の落志あり

天坂

悟友

お教とさきぬ教をほこさき

江南

うしとらんしきも捨てた梅枝

一船

二月酔え小恨のうらみきり

蘭室

竹枝やゆりぬき庭れむうら

佳兆

さうけて硯もされを秋の秋

青塾

急ぐ信や茶舟蹴心風をうく

佳兆

美竹や下りてゆくみ奥に醉

魯州

兼雪さし寒もされうらみ此白ひ

全

淋しくもや只啼捨て秋の半

佳兆

白牡丹嘘ひく川来て隠れぬ

全

芥子もあやむ利児のち鏡

悟友

伐跡の枝は春のうらみ

春山

雪もやあけ砂もも負えうら

斗律

月雪のさういと鳴る浦も春

楚萑

系捨し小舟新面一枯柳

青塾

うらみは何れの雪解を奔川

一船

硯屑ふほろり海ぬを此風

如流

騎負く顔不変あり競馬

讀佛書

江南

大名又燈籠堂ふ禿うふ

花暁

燃しとふ心とさうん時多

春山

掛考也巴條川糸の夕附日

佳兆

獣のまゝぬきけり夜のを

香峯

糸の動くふや杖の通ひ道

同高松

三朝

五ヶ師ハまきさを踏や年此等

一船

室さきとる寐て少叔の嵐が

一始

父を也あうして月死一口松

三朝

獵人の肉とふをさる圍が表が

拱吹笛

牛毛

鼎煎や差の中なるみとつじ

魯州

恙忡小虫をよかき野風呂が

南浦

やうとまも眠るく山は也初橋

都夕

葺物也まよふまよふ本ぬ所

青塾

松陰小人の夢けりる夜月

柵枝

弱止て屋れをと言ふさうか

今

野の宮也音も言飯の夢徒し

柯喬

羽まふさうらうらせうらぬ塔うふ

春山

防風やトマて糸引く女まき

青塾

徒の麻袋包むすくはるる

梧友

風の吹よりのきり曉の月

象山

終夜只る降てけ 秋之

華前教習

堯曦

傍寺ふゆれいさのそ夜月也

讚三殿

雲崖

伐株のさくしきさう小時夏

有篁

あつ月氣ええそちの陰板也

獅丸

篇志老る受人の端居のふ

有光

壁のたれ机は暗しきりく次

路傍

子ハ寝よ眠る鶴舟の板明也

伊勢林

鳥齋

蚤こめて月静なり夕柳

魯州

りよも来る我をあつる東山

全

花月との力もええいをれ唄

旭柳

限りあつ日はせやふと牡丹也

固有

急低し机のうくのほき萩

魯州

まると月好しよは陰けなうりて

其道

不業のしる言室を死探えりふ

魯州

つあつむ桂や小田の朝ほしめ

灌圃

あ仙や日の透やを死小葉垣

其道

石月言と照しれ提灯さうり

金毘羅

石淵

厚とるゆ度しきりの月

其道

友の雨ね女の髪ふなれり

有國

菊の表より残る種を
 字のかみ取うりきり山さ
 秋伯 露のさかや苔渡る月の眼ふし
 小男廉も角と落して涙無
 又取ふや涙も竹田も一
 さらぬも襟もきりけてる
 けしなうし船出させら
 友非ふや嵐も志の心
 永き日と橋一本もきり
 文科や月小乾き一橋

芳山 麦静 雲崖 麦静 柵江 魯州 旭柵 花桂 魯州 麦静

かけ鯛小怪の字や五月日
 けしなうし船出させら
 秋のそと子晴とまれば
 虫買ていろくの秋と
 女身まりの思ふも
 鏡うつて寺と
 帳の團小嵐の
 お方小法師と
 是も酒幕の
 岸や根ハ風上

藤子 三逕 雨篁 柵江 旭柵 如峯 芳山 竜姿 車龍 有光

障も或集りて僅寸芭蕉也
 猿の隠垂と曰ふ人よほつたり
 小言又入やおハ訓條のあけ音
 機織のむしつらやつとすこと
 どもくも雪の初うぬ暑とぞ
 懐きあひりか減やとりの給
 お愛とゆ夕顔の新野和
 一本のねよ美ありけり月
 野芝居のくろくも後くる時あは
 美ハまゝ、延して梅の咲小も見

其道
 有篁
 麦静
 旭柵
 如峯
 今
 寸破
 三逕
 梅風
 のぬ

養 連歌一々房をねる所の性也

四三本松

床一とのあやをえそ月巻
 苗ハよ早まゝつとまゝささ秋のふ
 人がくついな叫く事とまゝの梅
 長橋と云くつり清くぬ秋の音
 芥子さなやうくさなは月乳
 神の獲ひひくつ増えりまはれぬ
 おむくは人の海や秋の月
 舟こそ居の風とすうふきり
 淋しと秋亭をさぬうきは麻

杜丘
 獅丸
 男糸
 紫鳳
 楚流
 梅廬
 固有
 眠亭
 鸞尾
 眠亭

芥子の花はらうれぬとたふさるお花
下暖帳や二日の月れ来よ入る
いしとたうた井ふ涌る湯をきか
杜支魚や雲の流る苔の雨
雨さうのうらゝ田面や啼煙
抱筑れ椽は難面し秋の風
山里ハガールおられて給ふ
白くくぬほ人撫や秋さ
好まらうとおのしづひや雲
白萩の雪ふさふさう山後外

旭柵
楚雀
固有
松花
男糸
馬直
奇峯
紫鳳
鳥齋
獅丸

月斜や星々くし甲代の山うら
遊蕩る家々を眺め林うら
ふ葉や後れはるる露のま
何となく思うて花のまをさか
猿傍の指火をさうる木考け星
暮の極や切れと伝なる川燈
けすさうる鄙の縁ハさ時が
暖かき藤啼くこに砂る月
積雪は積せせぬこの燈さ
刻とめさふふの涙あはれ

藤子
楚雀
眠亭
草聲
不白
路傍
秋馬
固有
灌圃
固有

伊勢田

讀坐居

龜仙

澤雉

龍姿

不及

助三

泰川

無名

靜山

獅丸

男系

花のつらなり小娃の遊ぶなり

猿鹿や神の居るれ秋の風

はの穿く葉のふまて水鏡に

配振の輝し鏡をよしを牙鏡

鏡よよぬる赤らけいん秋の言

それ仲小ねの一樹や志加の秋

身の望まは出くしてせぬおのころ

吹た及昔の表もや秋の風

からりしれり月の輝きを

まもりしきしれり月を

讀高松

桐花

眉山

見嶽

旭柳

一州

楚流

灌圃

のぬ

一船

班雀

小雨と秋の身より芭蕉の

稲うりや人のまじりし生の猿

馳啼のま家のまを言れ月

虫のまも地よ治りて秋をし

そのせ候もいふれを愛や葉の

照流く目とまあつたりるさう由

月よ居て傾く秋やけぬより

猿のまと思つて麻を言遠近

まもりしきしれり月を

讀高松

同鶴と淨

讀春日

讀森

西讀

巻頭

三山一帯に雲を巻く

豊所

暮臘

石に雲を巻く

兆石

奇峯に雲を巻く

奇峯

大魯に雲を巻く

大魯

主桂峯

度雄

石淵に雲を巻く

石淵

菟田福間

志風

瀑川に雲を巻く

瀑川

西講茶麻

竹林

奇峯に雲を巻く

奇峯

藤古の橋人より葉の層

全

如城の宮堂に北極の星

梨山

類聚上

静

深の遊人の別路に雲の如

象山

風景は正に世間の網の浦

泰川

類聚

青柳

雲信の雲の如く

文輔

信如生語

如丁の雲の如く

奥叟

豫如紅

石淵

石淵に雲を巻く

拳遠

加賀金段

夕甲斐谷戸 水瓢
 形信濃里茶肆 車龍
 如信濃里茶肆 鸞田
 柯喬
 奇峰
 全
 其道
 花楓
 里隆
 如陵

夕甲斐谷戸 水瓢
 形信濃里茶肆 車龍
 如信濃里茶肆 鸞田
 柯喬
 奇峰
 全
 其道
 花楓
 里隆
 如陵

男青柳 若
 名瀑川 月
 桂讚櫻井 連中
 差築前福岡 蒲尺
 聖一 夕
 酒全 雲
 暮一 秀
 暮一 方
 小梅友 田
 小泰川 田

男青柳 若
 名瀑川 月
 桂讚櫻井 連中
 差築前福岡 蒲尺
 聖一 夕
 酒全 雲
 暮一 秀
 暮一 方
 小梅友 田
 小泰川 田

クニヤとくしほきふ人のこゝろ 甲斐谷戸 天瓢

移りまよふ小町の果也秋の露 車龍

かんこも啼きぬれそり我の涙 信濃伊集院 鸞田

清涼も音々、空の音も心 柯喬

船の漕くまよるまの田の柳 奇峰

船齋 山住のこゝろの嵐し 疲巖 全

天竺もや猫とあそぶ尾の巻 其道

帝引の流し橋はとあつさうふ 西讃麻村 花楓

字かかれぬ世のまじりく 藤花 里隆

文車小梅ちるるまのまのり 如陵

男なりし縁はぬくし 牡馬 青柳

名月七雪小縁をさす橋の上 瀑川

桂もふれて日影のつゝれをり 讃梶井 連中

まきの雨降やかろしと牛乳 筑前福岡 浦尺

鶯のまよひ思つゝ二葉この春 一夕

酒宴ぬ日もおぼろけ山花 全

雪と我とあけこゝろの月 一秀

雪もや散まらけりる花の影 一方

とよほし静よえゆる角か 梅友

小田守の伽や篋の飾りあり 泰川



カササキ又月夜の目も言はれり
 夕影や門く風呂焚立所断
 強さるり人々の指やまの給
 風ふきて実と金玉て秋より
 秋の隠る氣出す納涼うか
 名のかよふ冬やうはる氣人竹
 系此處の引てとてとてつる
 心ふのそむ梅園低し秋の夕
 舟さても登るる川と小船舟
 舟されし南無花やまの言

阿波
讃岐

里水
 青柳
 全
 泰川
 文洞
 醉月
 奇峰
 其州
 里隆
 梅友

養 菊葉の神々梅もさる位うか
 下京や青月落て秋叶
 千金のちむ好し牡母家
 ちふれ卯たうり秋の時も
 秋葉のけいさき秋の管が
 刺札のけいさき秋の枝低し
 初はししぬらりと秋を吹とる危
 時を啼き誠す富士の裾野うか
 秋鳥引のちむ好し秋の大いさ
 筆持て縁め歩み秋や涼生山

大坂
豫嘉言津

灌圃
 全
 寸暇
 仲惠
 五岳
 桐花
 蘭室
 仲惠
 桐花
 蘭室

虫のまゝも言ふと秋の仇あふ

一州

紫の信と楓を搦け月を

馬留

白ゆや牛小鞭の井田道

虎山

一帯も搦まぶるおめく

龜隆

至るまゝ月を一萩の上

固有

枝折戸を箒でたてて掛月

柳江

罪はその上よみ深き影の部

馬留

やの梅やま書ると吹流し

頭化

を月灯の伏せく浅き枯れ部

藤子

能くれい動くまじりる露氷

松圃

同春日

まゝもや柳ふらふと

博山

再ぬきく信せとけし時

止敬

月をこしのくもを

里隆

秋の雨ぬもてね女れ静

灌圃

日にくらぬ思のまのりや

旭翠

眼をこれいふ霜まをけり

其白

冬くらく日ふれし

存候

ゆけは流ゆけは

十細

雲の奥をて

固有

同橋野

紙漉て

麦徑

謹集

さねわらふもあまなうせと夜のは

一睡

常も二多ふりの草のき

柳枝

室をいとおと守て厚た氷うね

戯蝶

讚高松

ふもや靴の漉の乳拍子

竹交

才ぬ人を待凡信りうま様

志竹

路色少てねむる記をぬぬお

暉峰

啼也雛子泣うの上野ふ曉れ

吾柳

同栗熊

沸くされ後りくて秋さし

其蝶

板のうれおがくおまもるお

仙吾

香花てあさとふろく柳う

里隆

山吹やうりうりふ古記馬の雷

同高松

枕徑

まをうりくしふま野うね

里月

荷りて出てる信や杖のれ

亀仙

同滝宮

古は宿もほほ巨旋うね

機柳

同高松

赤と待人を待人遊路味や

一山

まをふらうれけてる此か

里隆

け秋やふねをうらうしね

瀑川

患病の骨うま居るまうふ

寸暇

同白鳥

蝶のりうらとあひまおね

柳光

月後庵林火堂のたひや木蓮花

吳峰

手折るも露をまきうせそ秋のそ

一睡

常々也二多ふりハ草の

柳枝

まきと秋と守て厚に氷うね

戲蝶

ふもや靴の蹴の乳拍子

竹交

才ぬ人と待凡晴りうも様

志竹

路並けしてぬむらじきおぬおが

暉峰

啼也維子泣うの上野小唄

吾柳

淋しき様うくて秋そり

其蝶

おのけられ寄がうおきもえりおと

仙吾

名花てふととふろく柳うか

里隆

同高松

ふんやうりうりふ古に馬の音

枕徑

まきとまりりりりまき野うね

里月

若りうて出てくる信や秋のなれ

亀仙

たはは宿もほよ巨龍うね

機柳

まきと待人と待人神鹿吠来や

一山

まきとふりうねけてあはれか

里隆

り秋やまき様しりう清しね

瀑川

患病の骨うまて居るまきうか

寸暇

蝶のりりまきとまきりまき時た

柳光

日後厚林史堂のたひや木蓮是

吳峰

同白鳥

花はてはさきさきめりし後山
みひらきしころもやあまじき
梅の葉は指のりしつるふきと
ささ葉の跡ふきぬる月ふ
鶉の舞は消すおと秋の風
うさぎもたのふ末を紋法作
すくはる後の燈籠やまの月
まら風や流石の舟もつる今日
雨は月人の秋はたかたか
思ふも程ふ涼しけりたふ

旭柙
仙司
養真志
鬼堂
白見
拍青
養真志
如翠
桃江
江南

常盤木の浦くくはるぬ一時五
宿くぬ猿人産一花のくれ
出汐やきうち騒ぐ浦の月
降るぬ雪ふりり東山
人よして養父の果やあれ果
養情も木す山はさるふり
宵月やまよゆつれ人通う
いせく様もくうりうまれ人
陽を中牛と救せし竹の上
さるさるして月とよふはれ家お

花汁
三朝
桃江
魯竹
養真志
鳥門
百川
灌圃
馬留
魯竹

うき布やあまの風ちて居る
 高旗山秋ハねくさ言にきり
 花よ来てねもしかり別をね
 橋や時代の志まぬを屏風
 深きよして晴り之祿の時ふか
 白きよいつくを出さん雪の様
 情くもや潜りぬけさるる中
 麻啼て月まよふ山の影も
 夕之の晴方を怪の時ふか
 料のやや海なる神ふりし

芳母
丹後宮津

仲惠 百川 灌圃 志竹 三朝 露公 一實 連中 旭柗 其石

夕之の晴方を怪の時ふか
 料のやや海なる神ふりし
 麻啼て月まよふ山の影も
 夕之の晴方を怪の時ふか
 情くもや潜りぬけさるる中
 白きよいつくを出さん雪の様
 深きよして晴り之祿の時ふか
 橋や時代の志まぬを屏風
 花よ来てねもしかり別をね
 高旗山秋ハねくさ言にきり
 うき布やあまの風ちて居る

越後十町
豫加三津

里隆 江南 全 旭柗 敬之 兎堂 宗魚 百川 たみ 旭柗

川をわたりぬる流 秋
 有やまやれりうぬ夏の夜ふか
 麻痺や昔懐けりる傍の庭
 月交て風よ露のひりううな
 日ハあて山物ふー暮るまれば
 暮よまのまよむむ路行くふ
 秋の川あつち流さるる
 松崎のまよや小町笑む此眉
 けくくさそまれば秋の傍れは
 きたるおのひめハ珠一粒葉山は

遠希金指

藤子
 魯山
 江南
 磨音
 百川
 志竹
 桃江
 柳江
 灌圃
 池柳

巻頭

虹消て海系白く秋の思
 秋の秋の静まうつる焚火が
 けくくく里の燈やふれ中
 浅はや芥橋夜のこをれ水
 本紙よもきけりる庭の時
 八重芥子にまう一きの白と秋
 傍信や早のきり小亭まよる
 あまもれりるうきし秋の言
 又よれい山さるりしてさうか
 友弁系やひさうふらるれば月

讚引田

京都

伊勢出

讃川東

如竹
 東鳥
 寸大
 如水
 花逕
 三千虎
 雨江
 如竹
 其道
 寛子

きり小極の井小う月かきり
長閑とや大和天孫の膝を離
葉の信小鏡しとをのほたる非
そぬしはを衣しや門さつ
稽の息よ一葉さつる無あ
雨色と接糸の月や時も
きん人雪ふよと衣ほしり
あ井小風新しと暖脈せう
越がんとして垣さし秋の露
警料や有花をののあり

讃

蘭室 雪山 風柳 如峯 寸服 魯州 鸞尾 蘭室 如竹 龍川

一本の折斜又旭うも
後し吸夢費くうあつ峰
海棠や登ひといたる秋の葉
ほとさし新燈のまにす花
唐倭一續かり海の月
さとのりの雨は似く牡丹うね
木更所の宮は宮らうまれ雨
蛇籠ともなうてまし竹ぬ人
吹乳を小きを塚やいと為

獅丸 閑鷺 吳峰 其道 三子兒 花城 如竹 有光 柳江 旭柳

朝人のぬくぬくぬき
梅さくや連も生まざる大和屋
古々の夏入りし後や啼ふ鳥
葉のそよぐ方より秋のまゆみ花
に紅梅の夕はよき花松梅の
草雉のそよ静なりさうしは美
相撲もや年かゝるる四方
啼雉あつ月おのほし
不ことするさの表はゆか
琴の酒よきさうも葉の子

花朝
花暁
花暹
仙悟
旭柳
全
里隆
鸞尾
花暁
如竹

左はよおのぬくぬくぬき
系おの戸はぬてり花暁
秋の草雉をそよ静なりさうしは美
梅さくや連も生まざる大和屋
古々の夏入りし後や啼ふ鳥
葉のそよぐ方より秋のまゆみ花
に紅梅の夕はよき花松梅の
草雉のそよ静なりさうしは美
相撲もや年かゝるる四方
啼雉あつ月おのほし
不ことするさの表はゆか
琴の酒よきさうも葉の子

里隆
五岳
蘭室
一實
鸞尾
風柳
三見
のぬ
里朝
路傍

巻頭

後の月そのなつらうしれ指さふ

大坂

卯山

先かゝて七日風なつらうしれ

今

あつらふ人やふのまらうしれ

暉峰

あつらふらうしれあつらふの雪

旭翠

豊 軒の名はあつらふあつらふあつらふ

旭柵

後しれあつらふあつらふあつらふ

卯山

至るあつらふあつらふあつらふ

讀堂居

竹里

まふあつらふあつらふあつらふ

仙悟

あつらふあつらふあつらふあつらふ

旭柵

あつらふあつらふあつらふあつらふ

百川

同馬松

如角

海棠や價のちひいと眠る

梅守

定やあつらふあつらふあつらふ

寛子

うらあつらふあつらふあつらふ

雨篁

あつらふあつらふあつらふあつらふ

飛澤

あつらふあつらふあつらふあつらふ

染居

秋の月れあつらふあつらふあつらふ

百川

三味線とあつらふあつらふあつらふ

桐花

赤くくと南天のあつらふあつらふ

兩篁

あつらふあつらふあつらふあつらふ

染居

泚車小島の珠や小燈山
夕暮多や夕暮本槿の一むし
月花よ好くぬ里や宋た鳥
出女のひとくもあふや夕時ゆ
系最や極の雲を流し嘆
多代経ても月の光せし様山
空らゆて中へ海今うきわら
系最や極の雲を流し嘆
何より利くゆらぬし葉何
物等のそとほらとし言はれ

讀書

撰鳥詞

地久 琴糸 桐花 暉峰 旭柵 桐花 暉峰 香風 旭柵 吳竹

猿僧の田向くそい香くゆ
そこの名 勤くとくして言はれ
侍と侃よ女さきかきそ幕
松山を流しし越えれ孫の毛
梅く鳴呼くくむらうい心
羽こそをたこける昔丹柵い車
肩こ日は見以負の知れぬ角か
まき日跡も麻のぬまきや流る雪
片鶉啼や百枚の羞の糸
けそゝの麻いぬまき雪の鈴

大坂

讚高松

梅友 其月 十細 雨篁 桐花 全 可榮 旭柵 寛子 梅守

晴晴晴々々柔らかなる帰りの

全昆羅

其道

舟は雲のよそに波をきりて舟

佐登

まつらぎを初とてあきらみ今秋の

雪山

清く日の入る海へも常なる

瀑川

あつらふと云ふ事の中は

東吹

雲のよそに梅もあつては

直一

帆をうけこみ舟の漕ぎも

歌壽軒

秋風もよそに舟はあつて

佳兆

寂として土も舟もあつて

麦寧

名と習てははとのまを

立志

全昆羅

全昆羅

譜高松

全昆羅

譜鶴市

峯は後つるをさうりてまきれ風
 山にや流るるあふ月ふし
 俄に花蝶表なる州の花
 元ふ音よ熟くまをば道折
 叔父ぬ肉と皮や玉ははき
 古々の夏あつくと秋空ふ
 秋平や土佐城も佳あふれ
 押さけそ後土佐おれ柳の如
 幸山のあふて里の夕日る申
 流る代の濁りさうし程ふ浸

桐花
 其月
 吳竹
 桐花
 旭柵
 暉峰
 梅守
 雨篁
 卯山
 一舩

巻頭

蛙啼きそ夕景らゆらゆら
 舟れそふのそよ波はせり船牛
 まつとそれ初をともるる今秋の枝
 清き日の入る海つちや啼きさる
 あつとくと富きる舟の目れと四卦
 雲ひよの梅おれそつてぬふらん
 帆をうけこよの清し累とわ
 秋風くさるるの鳥れおれおれ
 菽こして土佐れをわらひこ子
 名を習て後とのまをわん

其道
 佐登
 雪山
 瀑川
 東吹
 直一
 歌壽軒
 佳兆
 麦寧
 立志

全思羅
全思羅
全思羅
讃高松
全思羅
讃鶴市

雲よりむ小倉の鳥や秋の言

淡島福良

佳兆

江の端や枝葉の中は夕桂

楚調

雪の葉やさそほれ家の言はけ

雪山

十六おやや葉と接ひはるの溜

桐花

月日向てかゝる鳥や夕俵の町

蘭室

魚つゝとぬらと井は月涼し

十網

糸好やと葉をけかひ子楢の先

暉峰

鶉の糞の糞よふふ一を木を

河岳

せめておのまき行もふ竹を

三朝

秋されや二十代のふる人通

暉峰

約米のまきふさくまゝあ鷄お

魚道

あをけかふも流きてそまゝり

讀留演

鷄聲

近江海や田毎に起るまゝ鼠

全

とららうらうらも柳の葉ふ

桐花

一はや伽藍のけりめある瓦

其州

弾指し琴をたたくやまおの

直一

谷ひとし備て涼し流のる

楚流

帝陵の方へ流れて言はけり

同勅使

一簣丸

短おや夏のよりぬ鳥

同小校正

白羽

ま湯て流のせりや松類

故泉

卯のまよふ藤まゝしてゐる板敷
鶴とゆる帆と一刷毛や横風
帆を大やま後味の木抜所
ひとゆるりて文のあやま撰
橋下と笑ふ雪解け水の音
船を方やまきくつてこの後の水
ふゆきの一入るしをとり
鴨の紙紙く目のいる尾よつか
雨をらの中お星あつて月夜
海印とまある小隠るる小結を

播磨吉川

讃山寺

同笠居

博山 秋畔 馬留 一船 蒲筥 其道 秋畔 霞川 幽篁 春江

葉をよめてあつぬまを宿はり
花のわらふふらふの牡丹うら
一里あつてを宿まに 枇杷畑
不とまふふらふれおのれ
切風中や風の掛る一珠の松
おまゝのりゝるまの屋や杜の元
一とまふふらふといらハさうらふ
み月あやふふらふれたるおの
ま月ふらふらふらふらふら
海とよとらふらふらふらふら

讃山寺

同庵治

淡加福良

讃山寺

西讃観音寺

其掌 妻菴 向湖 一之 仙悟 其井 春魚 東吹 可築

卷頭

江は月夜海流のたのむるまじり

伊豫三嶋

青蓮

銀舟のまじりてのまじりてのまじりての

阿波島地

亀遊

ふありのまじりてのまじりてのまじりての

讚高松

其種菴

長つける人のまじりてのまじりての

其曉

面ふ日はまじりてのまじりての

伊豫松

池蛙

まじりてのまじりてのまじりての

西讚

其柗

暁やまじりてのまじりての

讚三松

杏曉

眼よ耳よまじりてのまじりての

西讚

旭柗

うき人のまじりてのまじりての

三二

よしやまじりてのまじりての

崔山

鏡よ水よまじりてのまじりての

西讚

一方

松の隣歩りや麻のまじり

亀遊

時を眼よのまじりてのまじりての

三三兒

若かりて麻ぬ人もまじりての

旭柗

待小づまじりてのまじりての

友之

夕よはまじりてのまじりての

金毘羅舟

里雪

静よやまじりてのまじりての

奇峰

早よはまじりてのまじりての

西讚

壽松

外れまじりてのまじりての

雲崖

まじりてのまじりての

伊豫松

其笛

夕白や宵半予の夢のそと
田鶴花人て早まらふ小田の暮
山梨や幻住庵の猿のこゝろ
那合ふてまねと端の雲の
又ぬきよはあを破りくはる
宿借の人の丸座や指ぬく
雪のぬれぬ像もすむむ
胸を記六位う神や小松引
猿さうし猿して雲の神の
鏡の照やびし猿くくく

龍安
静山
其禪
全
楓江
一州
萌柳
三千見
崔山

阿婆延

讃田

あちしやあ羽の甜宮はる
又とまぬ人をりてか
新をそとる焚火や五月
英徳の鶴啼て近江
うしや雨をたふす
さうす思ひ切ると
又ゆれぬ風をさけ
り麻や糸ふか
病啼て後ハ
為啼と孤村の月

杏暁
柯喬
青蓮
三二
杏暁
旭柳
其暁
友之
舜民
里水

讃礼

巻頭

春魚を願む日や新代は房の澄海を山

鈴こころ志はゆる紫糸の匂いさか

蚪斗やあれ中なるこほれもの

花の花望しとんえてまぬふきり

鴨鳴や松よけ白れ月の夜

アツりの眼は候しまきれ山

夢うけて牛もあふれ気おひさ

茵代や雨をまきぬる二鹿

一ささくちあ鴨飛ゆく時あつね

るまはれや芭蕉とよまはれ江

伊勢山田

讃岐井

讃笠居

春魚

秋棧

必等

幽篁

車龍

其道

機柙

百川

車龍

宗讚

馬の脊と接る歌路の抑うふ
 備嶋や九條まうれ言世し
 うふこの言方まうれ言世し
 家おの弦ふりや土用子
 生えよあふれまうれ言世し
 玉の帯まうれ隣同士
 ま風や障子移まうれ言世し
 智恵のつる人ふとほふ極部
 極のふ伝てて連よとふ風
 眼よとふおなと雪れ朝ふ
 杏曉
 柯喬
 三千見
 鳥帰
 桃里
 松花
 三千見
 桺江
 龍姿
 龜遊

西讀筆瀧

巻頭

春魚
 秋棧
 必等
 幽篁
 車龍
 其道
 機桺
 百川
 車龍
 宗讚

伊勢山田

譜後并

讀筆居

甲ふらまれや人きき縁はあはれなる
 ちをうれていゝくき梅の境うふ
 桜川之舟の雨ひや梅はふ
 実梅とたうて屋の影急か
 力ははまきく及もぬれ雪煙
 燦掃や袋柳うゝ嫁の君
 るくもて川越をおもひ蛙
 嶺跡の火車あはれ山の奥
 系く出れ木と積む岳やうり
 顔よ火と焚や葉度此禍系

伊勢山由

赤溪
 巴江
 梧風
 車龍
 里朝
 梧風
 龜隆
 秋嶋
 其掌
 宗讚

嘆くもの有てゆえしれ名所か
 うのこれや長中さ空に霞一ッ
 焚くれ母の庭さうかりひさう
 とはの雪地も陰なうは清にさう
 又遠しとて人教を記を兼さうふ
 烟やそ又昏かろうふ小蛇の房
 衣の香や花の六世は清の董州
 秋涼うふよりさやたけり藤
 名月や白雲のてえを記を兼清
 遠かきふ行る所ううはあさ

豫州江
 赤溪 梧風 竹里 故泉 司 吾柳 其道 雨篁 飛澤 故泉

中さるれや人さる縁は空に霞
 さうれていさうも梅の境さ
 披川之舟の通ひや梅はさ
 空梅とたうて唐の秋涼か
 カははささう及もぬを雪地
 焚掃や懐郷さう家さう君
 るさうて川をさうおさう蛙
 焚くれ火串をねる山の妻
 焚くれ木と積む岳さうり
 焚く火と焚や葉を度れ福系

赤溪 巴江 梧風 車龍 里朝 梧風 龜隆 秋嶋 其掌 宗讚

舟戸やういせうとけ居け状
 本比扱の采搦新や推の足
 月の出でそまふいぬ等 象
 草ふさやういせうとけ居の座さ
 雲らういせうとけ居とくうと後の香
 んふとく僕のまひや不ぬ帰
 搦ういせうとくうとけ居の衣
 山里やういせうとけ居の傍一人
 新ういせうとけ居のぬ花の心系
 其中の弱とくうとけ居の雲の行

一 夕
 梧風
 春魚
 雨篁
 象山
 其掌
 一之
 赤溪
 由歌
 十細

朝白やうつらうまは枝折門
 又よれいおしき神や常持
 去りてその好の御し無志文
 後波のうねくまけり志野
 常れまを流る涼うせ通ひら
 只流よまうはらしのうら
 暮や新もつらう人の帝
 横として流乳よ流る門回掛
 舟民の江流る一戸の角
 涼しきれ酒は賤も孝大向

仙悟 南溟 胡蝶 龜隆 赤溪 奈菴 其州 故泉 白羽 翰林

妙戸やうひやうは屋け杖
 本比杖の采搦新や指の心
 月の光を玉矢いぬ筆 新
 草まふやうはうらたの摩き
 雲らしれもも存るうらゑの香
 心ふとく僕の文ひや不ぬ帰
 梅うらたもももれ塚の衣
 山里やう新なり花よ傍一人
 新の舟や風きぬ花は系
 其中は弱くも折まは雲の行

一々 梧風 春魚 雨笠 象山 其掌 一之 赤溪 由歌 十細

つらつら風の匂いや夏の山

讚前田

楚雀

其中よ天竺堂の後の籠

大坂

加紅

お芥子に蝶うのまの日和

讚源本

三鹿

秋風や波は遠く平家蟹

我乘

お〜〜〜お〜〜お〜お〜

鳥齋

お〜お〜お〜お〜お〜お〜

同四巻

梅諷

笑〜〜笑を隠す籠〜〜

加隆

極ゆるゑ高嶺や小おめりも

梅諷

古寺や梅はさうらの花を

有光

まの山よりお〜お〜お〜

旭柙

親老は極をなすうのり

奇峰

お〜お〜お〜お〜お〜

柯喬

お〜お〜お〜お〜お〜

伊勢

春潮

お〜お〜お〜お〜お〜

柯喬

お〜お〜お〜お〜お〜

梅諷

お〜お〜お〜お〜お〜

鸞尾

お〜お〜お〜お〜お〜

旭柙

お〜お〜お〜お〜お〜

雪山

お〜お〜お〜お〜お〜

有光

お〜お〜お〜お〜お〜

魯州

木枯や 墨海子 産るしし山
我像と 刻むる也 秋の之所
石山 雲連ま 暮のつせ
雲のこゝろをま 椀を
雲を 寺のさりし 在る所
後 雨の月 汐の 浪の
物 居し 也 海 中 夜 秋 の 心
去り 心 中 言 事 系 の 心
痛ぬ 心 中 言 事 系 の 心
海 中 言 事 系 の 心 暖り 鳥

寛子
魯州
柯喬
蘭室
有光
奇峰
芳山
一舩
麦静
其長

宋古も 心 中 言 事 系 の 心
予 木 心 中 言 事 系 の 心
積 雲 心 中 言 事 系 の 心
果 心 中 言 事 系 の 心
日 心 中 言 事 系 の 心
木 心 中 言 事 系 の 心
掃 心 中 言 事 系 の 心
管 心 中 言 事 系 の 心
心 心 中 言 事 系 の 心
月 心 中 言 事 系 の 心

蘭室
異調
吐童
寸暇
椰江
柯喬
朱提
芳山
椰江
一舩

霧のうけをさうく雪ふけぬ

路傍

常たをれまりし山霧ふか

深居

火のうけし例町平嶽 月

暉峰

村をさうくさうくまきたし

一船

子ひ暮ふおろさうく山霧ふか

亀隆

日のうららけとまじりまきたし

全

ゆきふたを照日のまきたし

頭化

石とさうく山霧ふかう維の声

貫二

戸のまの只雪れお中ふか

一之

踊るわさうくまきたし

二竹

豫めと云渡

讚喜

下馬札のつゝまは淡ぬきさうふ 大坂

きつふふといささかりし行状戸

庭有て用られたる松掃部

かゝぬおねをのつかり後れ月 同

萩の戸や押せぬはうきおぼ

静かなる宮に五人や雲の底 讚長尾

五形家や世をくもる女牛楽

なれりもくあり川の月

朝くまもささの梅きし夕附也

きつさのふよと照る紅葉也

旭山

蘭室

朱提

青く

吐車

兎溪

龍川

今

雪山

五十五

巻頭

物のうけまゝさうく雪ふけぬ

きつたをれまゝりし山居ふ

大坂の行例町中月

時をささよまゝささき

子し暮ふおろさうき

日のうらみ後とみりき

ちやうふ花と照日のき

石とさる山静なり雑の声

戸のまゝ只静きれ中うき

路傍

深居

暉峰

一船

龜隆

今

頭化

貫二

一之
二竹

豫めとす

讚長

孤柳の雪
青藍
故泉
芦洲
一江
貫二
路傍
可厚
柳江
楚流

孤柳
青藍
故泉
芦洲
一江
貫二
路傍
可厚
柳江
楚流

豫嘉密

五十六

蘆洲
十綱
貫二
貞之
固有
龜隆
蘭室
芦洲
全
石淵

蘆洲
十綱
貫二
貞之
固有
龜隆
蘭室
芦洲
全
石淵

豫嘉密

老いよとてはれはるるをねお
 夕風やほろほろの露の降る
 雨晴て雲なきを 湖邊か
 葉の香やせとるらぬ所か
 花よしの体うたふの日はか
 ろはるはるを 橋あつむを
 花よまをて月ふり帰る 藤の
 嬉吟や大いふれくゆる思れ上
 登る月こそ 暮れ出て 赤の
 まる風やもる 辰のほろほろ

青藍

百川

南漢

如峰

百川

一秀

松花

負之

赤溪

里川

系中への業ありて深遠の湖

城山

物ありこれ竹の音なりきすなり

蘭室

月ふきつらつらと恨みし時を

以一

夕也や枝は佳のものと吟

全

空よりはあめ降せしやあめふ

負之

城内の鞠の勢もや、日の暮

一船

我輩のそよよと新雨の秋の風

赤溪

まじりの花のそよよと傘の雪

里在

中より啼きよのこほりやそよ

観瀾

惑さとも梢よりつる風四十雀

如流

老いよとこころはよきふをわかれ

青藍

夕風や、霞よに花の影を

百川

雨降て、雪方立ぬる、ゆき

南溟

葉のそよよと空のうらみ

如峰

花よまを月ふり帰る、花の事

一秀

晴冷や、大なりと、向る思れ上

松花

登る所は、あれと、あつ、峰如

赤溪

ま風や、もる、辰の、は、運れ、新、は、と

里川

巻頭 何れもよきれおしよるたねを

金毘羅

一水

編みあはるしりとも果ぬおのり

其笛

まゝしりともあはるしり

青蓮

白きれいりよねまをたがすれ

其響

著念おのまよと兼つおしきり

寶丸

夕鳥鳴く一戻るわりおしきり

如綾

籠籠ふいひのゆきやまはれ月

其響

陽をやけおの不動の後しり

故泉

小石階段中しりてまゝしり

百川

六

卯のふやたひもたねの上

金毘羅

松林

連者れ旭よひうも揃う南

佳兆

揃ハや暖まると早の氣

一州

海をぬえも育し一室なる

花暁

為るまにねと縁清き所り

阿彌丸

馬叟

神多しよふとくさるる教の梅

雲井井

糸紅

百れおや芭蕉よけりる春の夜

百川

夕陽をききると田舎のたけ

全

火は清て細代の朝日静あり

青蓮

源氏解く女もや同じく

如綾

巻頭

伊勢のうきはれ朝のうきはれ

豫加松

一水

稿書やるはらぬ

金呂羅

玉壺

まゝくはる

其笛

白雲れいろよね

青蓮

著余あめま

其柳菴

夕鳥鳴く

葎丸

纏るふのゆ

如綾

陽をや

其襦

小玉

故泉

家信の

百川

卯のふや

金呂羅

松林

連春れ旭

佳兆

捕ハヤ

一州

海志

花曉

為

馬叟

和

糸紅

百

百川

夕

全

大

青蓮

源

如綾

嶺の間の土中、まきの風
其道

をきつゝの報をよめりて
全

活ありしとてまよきうらうの報を
竹林

経舟のみよきとちの報を
五雄

うらまの痛のたつとじし
南浦

又をさかふと他の身より
其柳

とよりくればうらまの報を
玉壺

やこの地をまをるとはる
連中

啼や娃存のちの夕
梅友

意うけの顔うけその柳
一州

讚林井

豫松

蝶々の産愛ぬけり世もか

雲解や狂くさるる筑前川

鶉匹の体極も河の男歌分

江のまうわつ屋うらま月

子土泥れ極も弱く秋の風

陽をややうらまをうらま上

歩りてまごまけの極や当藁

如林をいれのまはくまの時を

まぬくまのなれまのま

位はまをひらう物も名もちう

其掌

佳兆

黄雀

梅笑

泰川

佳兆

古楓

一水

其掌

玉壺

巽下麻

讚富

蝶々の初の中もまの風

まを極の報をまある川を

清ありてままをうらまの極

極舟のみままをまのまを

うらまの極の極まはし

まをまをまのまをうらま

まをまをまのまをうらま

まをまをまのまをうらま

まをまをまのまをうらま

まをまをまのまをうらま

其道

全

竹林

五雄

南浦

其柳

玉壺

連中

梅友

一州

豫松

讚華

麻布や燈細き孝の寺
 陸のきと極て投す舟分卦
 梅屋や火籠とるれて況いお
 門く出てゑる主守るの月お卦
 づよしとて世後の浦そ秋の雲
 日ははれて花も散らさるる
 涼しきや並花とるるおん
 夕ぐれい暮のあそり垣根卦
 一つおの釣瓶の縄や花け上
 秋のあけ嵐となつてぬるる

金羅 綾糸
 梨山 石翁
 豫松 白月
 一州 竹林
 楚山 梨山
 綾糸 五雄

法系

冬なつしうきをんれ葉も花も
 けきぬ雪れなこいや夕時雨
 船中の松よさむさうた卦
 帰さくさや柳雪の冬さる
 沖垣れおや志うれの涼さる
 けそなふおちやあけなはる

百川 暉峰
 雨篁 和由
 半菜 桃江

暉峰のぬきねたさかたつめ

暉峰

船長の松子さむさむた部

雨篁

帰さくさや 御雲の冬まゝ

和由

沖垣に松や志くれの涼さう

半菜

水そなくおちもあはれな心

桃江

指を... 指の... 金...

清暉堂

芝峰

作きりえよさらも小峯の十月月

讚岐笠居

百川 十六句 暉峯 十三句 雨篁 十三句

赤溪 七句 南溟 五句 以 四句

千鳥 三句 里朝 三句 香峯 三句

其石 三句 宗讚 二句 千峯 二句

竹里 二句 幽篁 二句 花桂 二句

龜仙 二句 不自 二句 自来 一、

三手直 一、 里水 一、

同 高松

一船 廿四句 桐花 十句 一洲 十句

追加

一無菴

丈左

持るや枝のよみ重續り志を

清暉堂

芝峰

作きえよさらも小女の十月月

讚岐笠居

百川

十六句

暉峯

十三句

雨篁

十三句

赤溪

七句

南溟

五句

以一

四句

千鳥

三句

里朝

三句

香峯

三句

其石

三句

宗讚

二句

千峯

二句

竹里

二句

幽篁

二句

花桂

二句

龜仙

二句

不白

二句

自来

一句

三千直

一句

里水

一句

同 高松

一船

北四百

桐花

十句

一洲

十一句

如角	地衣	一峯	醉月	吾柳	石山	吾雪	荷薪	芦洲	十網
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	十句
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	仙悟
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	八句
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	其類卷
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	六句
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	
一、	二、	二、	二、	三、	三、	四、	五、	六、	

楚山	積翠	筠子	桃徑	同	都夕	南浦	花雪	連中
一、	一、	一、	一、	同	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、
一、	一、	一、	一、	志度	五句	四、	一、	一、

同 律田

斗律 四句
紫鳳 四、
如髮 一、
玉泉堂 一、

歌壽軒

柳翁 一、
竹交 一、
玉城 一、

魯州 十七句 柯喬 十三句 奇峰 十二句

如峰 六、 吳峰 三、

同 鶴羽 四、 松風 二、 麥徑 一、

一秀 五句 赤甲 一、

艾甲 一、 同 三本松 四、

柳江 十二句 其鳴 六、 東江 四、

杏曉 四、 青藍 三、 花靜 二、

文立 一、 杜丘 一、

同 白鳥 一、

有光 十二句 灌圃 十句 江南 九句

梅諷 四、 志竹 四、 紫懸 三、

化來 二、 柳光 一、 其白 一、

同 井上

崑傍 七句 松花 六句 頭化 三句

里月 三、 兎嶽 二、 里川 一、

同 春日

瀑川 七句 青墊 五句 春江 四句

助三 一、 松圃 一、

同 龍宮 一、

里隆 十句 博山 六句 一文 四句

機柳 二句 同 復井 五句 春山 四句

其道 七句 佳兆 十句 朱提 三句

其洲 三句 連中 二句 虎山 一句

其等 一句 翰林 一句 其井 二句

白月 一句 井 土 一、

外來 同 金毘羅 一、

故泉 十五句 河岳 五句 象山 五句

春山 五句 石淵 四句 蛙水 三句

玉壺 一、 觀瀾 一、 梧鳳 二、

緩系 二、 公木 一、 麥寧 一、

松林 一、 胡蝶 一、 佐登 一、

里雪 一、 諸方 一、

川東 三句 芳山 六句 可登 五句

佛生山 三句 三徑 四、 青柳 四、

九山 孤柳 三、 雲崖 三、 澤雉 三、

無名 三、 楚山 二、 虎溪 二、

吐章 二、 風柳 二、 贊丸 二、

栗井 魚道	大森 百川	壽松	一方	直一	古楓	富田 上雲	福田 岳
二、	四、	一、	二、	三、	一、	二、	三、
植田 梅笑	觀音寺 春魚	大森 泰川	西讚	連中	吉野 綠山	引田 文哉	富田 里水
二、	三、	六、	三二	一、	一、	一、	三、
觀音寺 素厚	大森 竹林	拂梨 梨山	其柳	新居 城山	牟社 舜民	浮木 我美	石田 萌柳
二、	三、	五、	二句	一、	一、	一、	一、

引 如竹	照其 壁山	吉野 如水	吉野 蘭室	鶴尾 眉山	前田 加紅	羽床 千種	鶴市 花錦	長尾 其長
六、	六、	七、	二十、	一、	一、	一、	一、	二句
富田 如緩	海米 眠亭	羽間 龍川	石田 固有	山寄 霞川	圓坐 司	橫井 和風	丁宮 如翠	戲蝶
四、	六、	六、	十二、	一、	一、	一、	一、	二句
福田 柳枝	四茶 其掌	羽間 麥靜	四茶 楚流	氷上 靜	鶴市 立志	圓分 加隆	東小川 荷枝	栗熊 其蝶
四、	五、	六、	九、	一、	一、	一、	一、	二、

小松庄

白羽

二、

川原

鷄聲

二、

大原

花楓

一、

丸龜

紫淵

一、

下麻

黃雀

一、

寒濱

桃里

一、

中井女

糸紅

一、

龍姿

四、

友之

三、

其櫻

二句

山豆嶋

二、

其櫻

二、

其櫻

二句

伊豫松山

二、

其櫻

二、

其櫻

三句

貝之

三句

里川

三句

其櫻

二、

共笛

二、

五雄

二、

其櫻

一、

石蒜

一、

一江

一、

其櫻

一、

車籠

五、

梧風

四、

其櫻

一、

川原

梧風

梧風

四、

三原

青蓮

一、

古津濱

竹息

三、

古津濱

可厚

二、

川原

李

一、

川原

魚雙

一、

古津濱

一之

一、

古津濱

友み

一、

古津濱

魚雙

一、

古津濱

一之

一、

度雄

一句

古津濱

阿波徳嶋

一句

古津濱

阿波徳嶋

一句

爲鳶

一句

西條

文洞

一句

撫養

龜隆

士句

白地

龜遊

三、

貞光

大魯

二、

富岡

秋馬

二、

岩延

楓江

一、

貞光

馬更

一、

古津濱

淡路福良

一、

淡路福良

楚調

一句

向潮

一句

紀伊

和歌山

高野山月空

一句

一睡

一句

壹後日田

有篁

五句

薩摩加古崙

為歸

一句

肥前長崎

祥天

一句

團松

一句

肥後天草

山嵐

一句

筑後田主丸

長山

一句

筑前福岡

志風

一句

蒲原

一句

長門赤間關

羅風

一句

安藝廣嶋

東吹

二句

備後鞆

其曉

三句

青牛

一句

棧道

一句

備前固山

其水

一句

播磨吉川

蒲荃

二句

丹後宮津

鷺兒

一句

跨小

三句

連中

一句

曉吹

一句

後野

市島

一句

若狹

冠雀

一句

李八

志柳

四句

一之

五、

寬子

五、

鳥門

五、

藤子

四、

寸暇

四、

水

四、

卯山

四、

梧友

三、

凍居

三、

花摘

二、

入江

二、

馬直

二、

鶯舌

二、

其月

二、

露公

二、

采成

一、

南采

一、

兔橋

一、

旭山

一、

青々

一、

三鹿

一、

棋津

大坂

鳥養 梅守 四句
野相 花城 三句
鳥養 魯山 三句

吹田 一實 三句
吹田 一始 二句
有鳥 由歌 二句

吹田 五計 二句
鳥養 香風 一句
吹田 牛毛 一句

桃江 十句
京都 有國 七句
仙司 六句

其川 四句
梅庵 三句
男系 三句

忍及 二句
車龍 三句
千鶴 二句

小砂 二句
東為 一句
白扇 一句

近洋舟木 一句
雨更 一句

六十九

鸞崖 六句
獅丸 六句
楚萑 六句

大 五句
伍勢山田 三句
花選 二句

調 二句
雨江 二句
秋拽 一句

秋島 一句
梅庵 一句
草聲 一句

春潮 三句
鳥齋 三句

尾張名古屋 一句

碩外 一句
肆山 一句

參河吉田 一句

兔堂 二句
足龍 一句
素橋 一句

桂園

一句

連中

一、

遠江金指

花汁

三句

海州

二句

鬼慶

一句

磨育

一、

布川

一、

菅里

一、

濱松 兔白

一、

和持 琴波

一、

能登所口

春臘

一句

加賀金澤

奉遠

一句

越前敦賀

堯曦

一句

越中放生津

台老

一句

越後十日町

水沢 霞雪

一句

史朗

一句

宗魚

一句

柏青

立、

同 敬之

四、

魚沼馬場 芦元

三、

信濃

上諏訪 文輔

一句

伊奈野 鸞岡

一句

甲斐谷戸

采瓢

一句

江戸

羨鬼

四句

斑雀

三句

度外

三句

圭紗

二、

飛澤

二、

花又

一、

出羽秋田

秋也

一句

陸奥南部

調鼓

三句

梨岡

二句

素郷

二句

梅郷

一、

津

里三

一、

跋

赤子の赤喉嚨奥の果きくぬしの筑紫
 深えぬ浦し濃しよりちりゆされふ
 夏白凡二万條ゆきさしは是峰とて
 深削城をひ既山莊集と名つけ
 侍りぬされやち山はつらしうき
 禁より月日新啼飛ははりのけり

雲より降りて平は成おもひのまゝの
 ともやせとせれ早おと経て今し
 徳をなす小海とていふまゝに
 海せしむるもよもふまゝに
 小冊子とていふもよもふまゝに
 のりあつて百四
 丙寅とていふ記

十一

明
 成
 成
 成

成

成

牛
 成
 成

書林

大坂
 野宮院九条
 寺
 本屋最毒

6257
3. 14

2192

小通... 人... 路...

天... 狗... 也...

咸... 運... 律... 坊... 亦... 町... 九... 叶...

杜... 盛... 陶... 市... 坊... 水... 町... 八...

杜陵 吞牛 豐 那

每

無